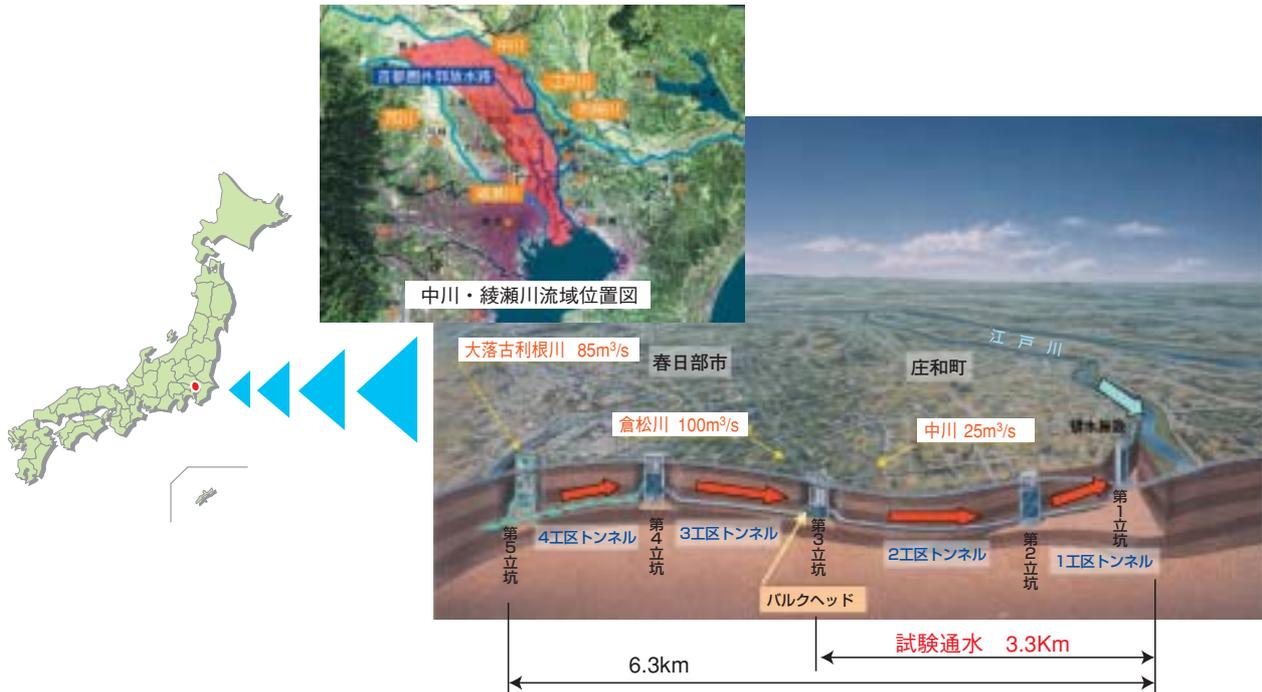


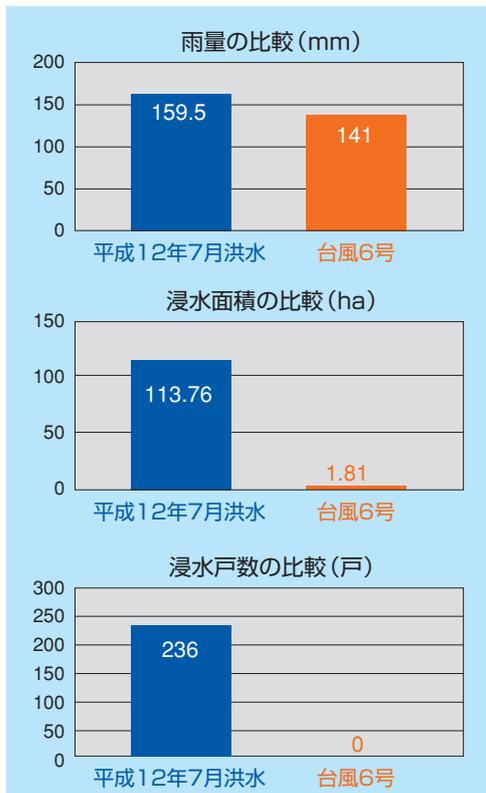
IV 事業効果

首都圏外郭放水路の効果について

首都圏外郭放水路は中川中流部の国道16号の地下50mに直径10mのトンネルによる地下河川を6.3km（埼玉県春日部市～庄和町）建設し、中川等の水を江戸川に排水することによって浸水被害を大幅に軽減するものでこの内3.3kmについて平成14年6月8日に試験通水しました。



平成14年の台風6号により中川・綾瀬川流域では、平成12年7月とほぼ同規模の141mmの雨量を記録しました。当時と比べ、首都圏外郭放水路の試験運用により、その周辺地域での浸水家屋が無くなりました。



※雨量については流域平均雨量（48時間）



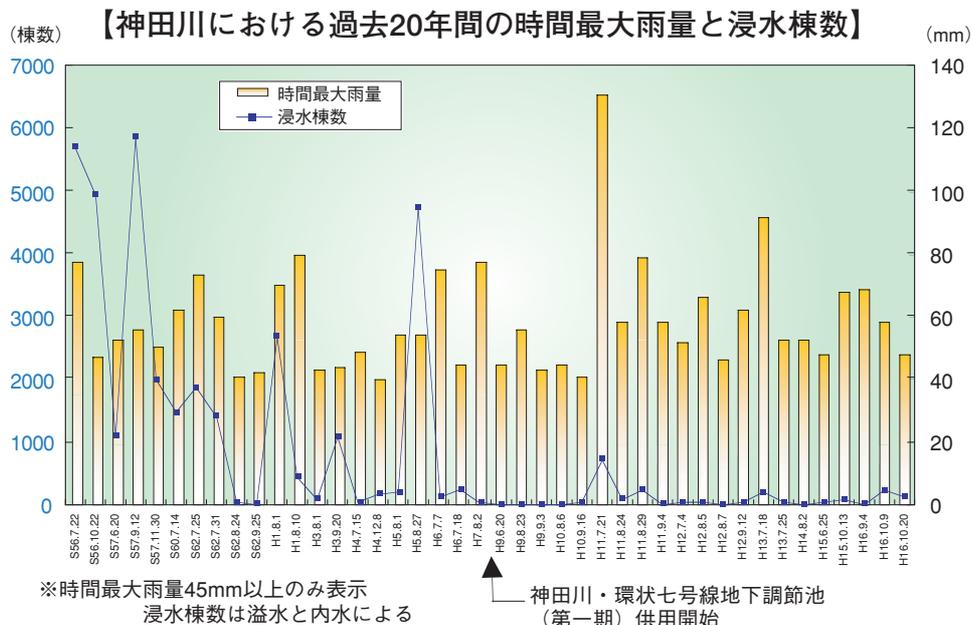
平成12年7月洪水（幸手市緑台2丁目地先）



平成14年7月洪水（幸手市緑台2丁目地先）

神田川・環状七号線地下調節池の効果

時間最大雨量と浸水棟数をみると、神田川・環状七号線地下調節池（第一期）供用開始後の平成9年度以降、**浸水棟数は明らかに減少**し、整備の効果があった。

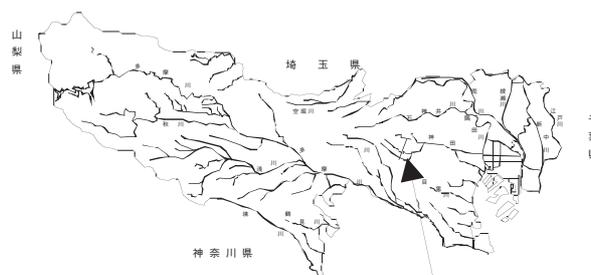


○事業の概要・目的

神田川・環状七号線地下調節池は、水害の多発する神田川中流域に将来計画している「環七地下河川」を先行的に整備し、当面これを調節池として利用するものです。

トンネル規模が大きいことや、早期に事業効果を発揮させるため、第一期事業と第二期事業に分割して実施しています。

第一期事業は、平成9年度から供用開始し、現在、第二期事業を実施中です。



神田川・環状七号線地下調節池

《調節池の内部》



《シールドマシン》



施設概要	全体計画	第一期	第二期
貯留量	54万m ³	24万m ³	30万m ³
トンネル延長	4.5km	2.0km	2.5km
トンネル内径	12.5m (土被り約40m)		
取水施設	2か所	神田川	善福寺川
事業費	約1,030億円	約540億円	※約490億円

IV 事業効果

ともえがわ

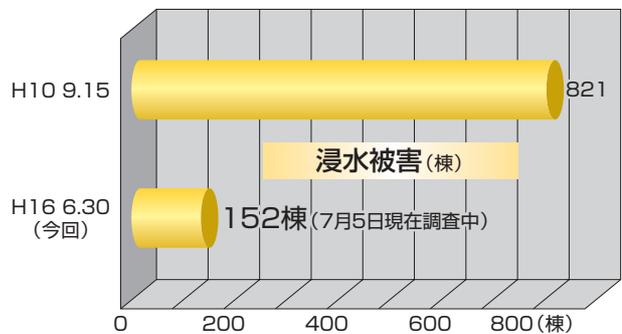
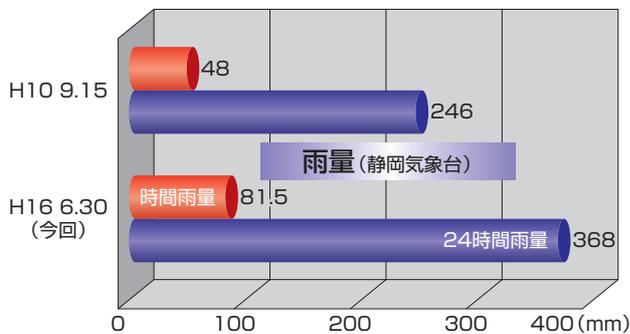
巴川総合治水対策 【静岡県静岡市】

6月30日に静岡市を襲った梅雨前線豪雨で効果発揮

静岡市を流れる巴川では、地域の方々の協力や関係者の努力により総合治水対策が進み、現在では概ね5年に1回程度発生すると想定される規模の降雨（時間雨量58mm）に対応する整備が概ね完了した。

平成16年6月の時間雨量81.5mm、日雨量としては静岡地方気象台観測史上最大の368mmの集中豪雨に見舞われたが、平成11年の大谷川放水路や平成14年の巴川狭窄部改修の完成などにより、近年で最大の浸水が発生した平成10年9月の水害に比べ、**被害が激減**した。

平成10年9月15日の台風5号と今回豪雨での雨量と浸水被害比較



第1期計画 58mm/hr	大谷川放水路	L=6,300mの建設	H11.4通水
	麻機遊水地	3工区 (55ha)、4工区 (31ha) A=86haの築造	4工区H10完成 3工区H16.9完成
	巴川本川の改修	狭窄部の改修 (L=560m) 津波工区 (L=2,100m)	H14完了
第2期計画 69mm/hr	麻機遊水地	1、2工区 A=105haの築造	
	大内遊水地	A=12.5haの築造	
	大谷川放水路	河床整備工	
	大沢川、継川	支川の河道改修	継川H14完了

麻機遊水地第3工区初の
本格供用!最大で約55万^mを
貯留しました



巴川麻機遊水地第3工区 (静岡市牛田)
6月30日 午前10時45分頃撮影

麻機遊水地第4工区では
最大で約55万^m貯留しました



巴川麻機遊水地第4工区 (静岡市南)
6月30日 午前10時30分頃撮影



台風21号における四十四田ダムの効果 【北上川水系北上川（岩手県盛岡市）】

平成16年9月30日の台風21号における四十四田ダム流域平均総雨量は131mmとなり、ダム完成以来最大の流入量約960m³/sを記録した。
 四十四田ダムにおいては、最大流入量約960m³/sに対し、ダムからの放流量を約500m³/sに抑えることにより、下流盛岡市街地では少なくとも約160棟の家屋等を洪水から守ることができ、大きな効果を発揮した。

